



幼児教育センターだより

幼児教育施設訪問研修 前半を終えて ～訪問1か月後アンケートの結果より～



6月から行っている幼児教育施設訪問研修ですが、9月末までに30園での研修（本年度訪問予定60園のちょうど半分）が終わりました。

今年度は、研修後、約1か月を過ぎたところに、訪問研修実施後の変化についてアンケートを実施しています。訪問研修後、園・所にどのような変化があったと感じておられるのか、一部をご紹介します。



子どもの声をヒントに遊びを広げていく面白さを知ることができました。また、その広げ方について、たくさんの先生からヒントをいただき保育の幅が広がったと感じています。（保育者）

子どものつぶやきを捉えて、「楽しい」と思える活動を心がけるようになりました。子ども達の声から、訪問研修後も遊びが発展していき、異年齢交流を楽しむことができました。職員それぞれが、さらに主体性を大切にして関わるようになったと思います。（保育者）

訪問研修でいただいたアドバイスを保育者自身の中で理解し、進んで実践する姿が見られます。

今回の訪問研修で、遊びの中から見えてくる子どもたちの育ちに改めて気付くことができました。（園長）

子ども同士のトラブルを保育者が困りごとと捉えず、ラッキーな場面と思って対応するようになりました。トラブルに介入しすぎず、子ども同士の関わりを見守ることが多くなりました。そして、その場面のことを職員間で話し合い、気付きや、育ちについても話し合うことが多くなりました（園長）



後半も、参加者の皆様と一緒に考える研修となるよう、そして、園・所にとって明日への保育が楽しみになるよう努めます。

幼児教育・小学校教育接続推進事業 モデル校区合同研修会

7、8月に、今年度の幼児教育・小学校教育接続推進事業のモデル校区では、小学校教員と保育者での合同研修会が行われました。その様子を紹介します。

【A 校区】

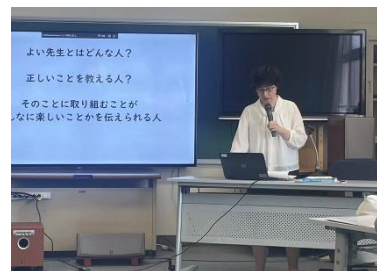
- 内 容：・富山短期大学 石動瑞代教授の講話
「子どもの育ちをつなぐ幼保小連携」
- ・グループワーク
 - ・情報交換等



幼児教育と小学校教育との違いを理解した上で連携することの大切さや、幼児教育の意義を生かした小学校以降の教育の在り方等について、具体的な取組、活動の様子を交えながら分かりやすく話していただきました。少人数で自分たちの取組について意見交換し、発表し合うグループワークもあり、「様々な視点を盛り込んだ内容で、参考になった」という感想が聞かれました。

【B 校区】

- 内 容：・富山国際大学 河崎美香准教授の講話
「幼保小の接続
～何をどのように接続するか～」
- ・接続カリキュラム作成の協議



「遊び」から「学び」へ向かう中でどんな姿を目指しているのか、互いの立場から対話を積み重ねていく必要があることを分かりやすく教えていただきました。

接続カリキュラム作成の会議では、交流計画の確認をしたほか、連携する3園のキーワードをもとに目指す姿を明確にし、小学校へのつながりを確認しました。

【C 校区】

- 内 容：・富山県幼児教育センター
新夕佳子スーパーバイザーの講話
「幼児期の教育と小学校教育の
円滑な接続を目指して」
- ・グループ協議



幼小の円滑な接続の重要性について理解を深めました。講話の内容を基にグループ協議を行い、子どもの発達の連続性について事例をもとに話し合いました。

小学校教員と保育者が交流し、意見交換をすることで互いの教育や保育について知り、今後の教育や保育の具体的な方策について検討しました。